

2-3. NB ミーティング、市民などへの取組み

取組み方針①：NBミーティングの今年度テーマの検討と取りまとめを支援し、検討と取りまとめに要する情報収集、意見集約の機会を設ける。

取組み方針②：NBミーティング定例会への参加者が増加する様、活動周知を積極的に行う。

取組み方針③：市民に対し、跡地利用への興味関心を高めるため情報発信の機会を増やす。

(1) NB ミーティングの定例会活動支援

1) 取組みのポイント

NB ミーティングの今年度テーマの検討と取りまとめを支援するため、テーマに沿った活動組織・団体との意見交換を実施し、また意見集約の機会として「防災まちづくりワークショップ」を開催した。

2) 取組みスケジュール

No	開催日	主な活動内容
1	4月17日※	・今年度の取組みについて
2	5月15日※	・今年度の取組みについて
3	6月19日	・防犯・防災に強い住環境について
4	7月17日	・防犯・防災に強い住環境について（住区における公園と道路）
5	8月21日	・「防災」に関するワークショップ結果と「防災につよい住環境」方針について ・防犯に強い住環境について（住区における公園と道路）
6	9月18日	・「防犯」に関するワークショップ結果と「防犯に強い住環境」方針について ・「出張定例会」候補先の選定について ・「先進地視察会」について

※本業務対象外。

7	10月23日	・出張定例会 - 那覇新都心安全なまちをつくる会 - 那覇警察署
8	11月20日	・「防犯に強い住環境」(案) まとめについて ・「第2回出張定例会」候補先の選定について
9	12月18日	・「防犯に強い住環境」(案) まとめについて ・「第2回出張定例会」候補先の選定について
10	1月15日	・「イベントの開催」について ・「NBMまちづくり案」まとめについて
11	2月19日	・「イベントの開催」について ・「NBMまちづくり案」まとめについて
12	3月19日	・「NBMまちづくり案」とりまとめについて



写真：定例会の様子①



写真：定例会の様子②

3) 対外的な取組み

今年度テーマを検討するにあたり、対外的な取組みとして4団体との意見交換の実施を支援した。意見交換で得られた知見は定例会で議論後、取りまとめに反映された。

3) -1 出張定例会について（防犯）

- ①那覇警察署生活安全課 安全なまちづくり推進係
- ②新都心安全なまちをつくる会

- 開催日時：平成 30 年 10 月 23 日（火） 19：00～20：30
- 開催場所：那覇市上下水道局庁舎B棟3階
- 内 容：防犯に関する取組みや事例紹介
意見交換
- 参加者：13 名（うち、NB ミーティング 4 名）



写真：取組み説明の様子



写真：意見交換の様子

【取組み説明・意見交換の概要】

取組み説明① （那覇警察署）

1) 那覇警察署の取組みや事例・統計紹介について

○沖縄県の刑法犯罪認知件数の推移

平成 14 年は県内の犯罪認知件数がピークになった年である(25,641 件)。その後、平成 14 年から平成 29 年までの犯罪件数は、3 分の 1 (8,047 件) まで減少した。減少の理由としては、平成 15 年に「ちゅらうちなー安全なまちづくり条例」が制定され、警察、教育現場、地域の方々と連携し取組む「ちゅらさん運動」が実施されたことにより、犯罪の抑止に繋がった為だと考えられる。近年観光客が増加している中、犯罪の認知件数が減少しているという事は、沖縄県民の犯罪への意識が変わっているからだと考えられる。今年も前年対比ー20%近く犯罪は減っている。

○那覇警察署管内で発生した犯罪

那覇警察署管内では、平成 30 年 7 月末までに 1,089 件の刑法犯が発生しており、1 日あたり 5.14 件の犯罪が発生する計算となる。また、犯罪種類として一番多いのが、

「窃盗」で 67.4%を占めており、新都心地区では窃盗犯の占める割合が約 84%と高いのが特徴である。窃盗犯は大きくわけて 3 つあり、1 つ目は自宅や店舗に侵入し物を盗む「侵入盗」(平成 30 年 1 月～6 月末で 1 件)。2 つ目が乗り物を対象とした自転車、自動車、オートバイを窃盗する「乗り物盗」(15 件)。おもろまち駅は駐輪場がきれいに整備されており、外からも見えやすくロックができる設備も整っていることから、環境を整備することで窃盗率も抑えられている。3 つ目が万引きや置引きなど侵入を伴わない窃盗の「非侵入盗」で、89 件発生しており、3 つの区分の中では一番大きな割合を占めている。

新都心地区の非侵入手口別認知状況(平成 30 年 1 月～6 月末※暫定値)では、万引きが 63%と那覇の他地区と比べても高い傾向にあり、大型店舗が多く、万引きの占める割合が突出して高い。

○新都心地区の子ども・女性対象の声かけ等の脅威事案発生状況(平成 29 年中)
今後重大な犯罪になる恐れのある事案を脅威事案と呼び、情報収集や発生時に行為者を特定し警告を実施している。もっとも多いのが「声かけ」で昨年 36 件、その他には「付きまとい」や「盗撮」で新都心地区では 9 件発生している。

○日常活動理論～犯罪が発生する条件～

犯罪が発生する条件として「子どもや女性など力の弱い人がいること(ふさわしいターゲット)」「犯罪を企てている人がいること(犯意ある行為者)」「監視者がいないこと(監視者の不在)」の 3 つが重なった時だと言われている。特に性犯罪では人目がある場所では犯行を諦める傾向があるので、防犯カメラを設置することに加え、「防犯カメラを設置している」と表示することで、監視者の代わりとなり犯行を諦めることに繋がると言われている。昼間見通しが良くても、夜間暗くなる場所には、街灯を設置することで監視者の目を補うことに繋がる。

○防犯環境設計～安全・安心まちづくりのために～

犯罪環境設計とは、犯罪が発生する物的な環境や状況に着目した犯罪予防の手法で「被害対象者の強化・回避」「監視性の確保」「領域性の強化」「接近の制御」の 4 原則がある。犯罪を企てるものを近づけない「被害者、対象者の強化・回避」について、那覇警察署では各学校で防犯指導の実施をし、危機回避の能力をつけさせている。また、「監視者の確保」については、地域の方々の防犯パトロールを含め、防犯カメラの設置、公園の木々を伐採、道路の植栽を低くし見通しを良くすることも重要である。

○防犯ボランティアの結成状況と飲酒にからむ事件・事故

防犯ボランティアの結成状況として、平成 15 年はボランティア団体数 98 団体だが、平成 29 年には 733 団体に増えている。終わりに、現在那覇署で問題になっているのが、飲酒にからむ事件・事故の発生である。110 番件数の約 4 割が飲酒に絡んでお

意見交換	り、適正飲酒ができるまちづくりも必要だと考える。
質問	大人の万引きも多いということだが、万引き目的の統計はでているのか。
回答 (那覇警察署)	統計はでていない。１０代の万引きより６５歳以上が多い傾向がある。現金は持っているが、ストレス解消や認知症など病気の方もいる。
質問	那覇市で取組んでいる登下校時の地域見守りはあるのか。
回答 (那覇警察署)	全県的に行っているフラワーポッド事業を実施している。花の苗を通学路に置き、水やりを通じた子供の見守りを実施している。
質問	外国人観光客の事件もあるのか。
回答 (那覇警察署)	外国人観光客が被害者となることが多くなっている。県警にある通訳センターと連携し広報周知活動をしている。また外国人観光客の万引きも多く、企業には外国語での万引き防止アナウンスをお願いしている。
質問	那覇新都心公園は開けているため死角は少ないように思われるが、公園内での防犯発生率の違いがあれば伺いたい。
回答 (那覇警察署)	公園内を外から良く見えるようにすることで犯罪者は入りづらくなる。街灯を隅々まで設置し、周辺には防犯カメラを設置することも有効である。
回答 (新都心安全なまちをつくる会)	地域で声掛けを実施しているため、子供のたむろや浮浪者が少ない。銘苅新都心自治会と安謝新都心自治会のプレハブが新都心公園にある。また自治会や周辺企業が清掃活動や水やりをして公園と関わっている。
取組み説明② (新都心安全なまちをつくる会)	２）那覇新都心安心なまちをつくる会について ○地域安全パトロール活動（平成 27 年度～） 年５回開催している。プラカード・のぼりを持ち、「犯罪をなくそう！」「安全安心なまちをつくりましょう！」（最近では「振込み詐欺に注意しましょう！」）と唱和して、地域巡回パトロールを行っている。 参加者は、地域自治会、学校、ＰＴＡ、青少協、企業・団体等（平成 28 年度より、内閣府総合事務局の青色回転パトロール隊も参加）だが、前はハーレー部隊、その前は（仮称）災害救助犬、警察学校の生徒、県警本部の事務職員に参加してもらうなど、アイデアを出しながら活動を盛り上げている（「不可能なことを可能にする」）。多い時には 250 名が参加したが、今は 100 名～150 名程度。メインの通りを歩き、主に観光客や地域の方、新都心地区外の方にアピールすることが目的である（メイン以外の通りでは普段からパトロール活動を行っている）。また、企業には、

社名の入ったのぼりを掲げて歩いて頂いており、企業のアピールに繋がっている（企業が参加するメリット）。

○年末美化清掃活動

毎年12月第3日曜日には、新都心公園を中心にクリーン・グリーン・グレイシャス（ＣＧＧ）運動と連動した「年末美化清掃活動」を行い、ゴミ拾いや落書きのペンキ塗りなどを行っている。参加者は1,000人超で、地域の小学生、中学生、高校生も参加しており、特に高校生は興南高校、那覇国際高校、那覇工業高校（浦添市）の生徒が参加している。

昨年は子供たちに災害時の炊き出しを経験してもらい、活動に飽きさせないよう取組んでいる。また、清掃活動に必要な用具等のうち、飲み物は会長自らサンエー、かねひで、りゅうぼうなど地区の全商業店舗をまわりお願いすることで、1200本程度集まっている。お菓子も企業からの寄附金で買っている。

また、新都心は落書きが非常に多く、いちごっこの状態で、毎年5～6万円をかけて小中学生、高校生にペンキ塗りをしてもらっている。しかし、古島駅下のトンネルの1カ所だけ、興南高校の美術の生徒や非行型の子どもたち、興南中学の生徒、青年会などで絵を描いてもらっており、雰囲気明るくしている。

予算に関しては、行政に頼らず、地域や企業で協力し継続性をもって取組みを行っている。（現在予算3～4万円/年）

○防災避難訓練

防災訓練は、毎年、那覇市が那覇新都心公園を使いドクターヘリを出すなど行っているが、一般住民の意識が低く集まらない。「それなら地域がやるしかないんじゃないか」ということで、今後、新都心安全なまちをつくる会で実施することを検討している。

○その他（竹あかり）

まちの活性化のため、竹あかりを今年の慰霊の日に実施した。材料の竹は、熊本県で300本の竹を切って持ち込み、竹を加工してろうソクを灯した。熊本県のトラック協会や汽船会社、那覇市のトラック協会の協力のもと、運搬料（船・トラック）は無償であった。

意見交換
質問

地域を中心に企業がバックアップしているということを初めて知った。新都心周辺で、元から住んでいる地主やその家族と新住民との連携について伺いたい。

回 答
(新都心安全なまち
をつくる会)

現在那覇新都心では自治会加入率が低下している。当初おもろまちには自治会がなかったが、1軒1軒交番長と声掛けしてまわり会員を勧誘した。周辺自治会とはC G G活動や学校とのつながりがある。アパートやマンションに入居する新住民の自治会加入率は少ない。おもろまち自治会の加入世帯は200世帯程度である。防災訓練を通じて連携・協力していきたい。他の市町村の自治会と交流会をし、少しでも加入率を増やすアイデアを模索している。防災での連携が重要であると考えている。PTAと自治会の連携・つながりも大事である。
普天間飛行場跡地のような新しくできるまちであれば、徹底して防犯カメラを設置したほうがいい。

質 問

平成16年から自治会会員を増やすために工夫したことや、増やす為にまちの変遷と住民の気持ちの変化はあったのか教えて頂きたい。

回 答
(新都心安全なまち
をつくる会)

当初は住宅街をパトロールしながら拡声器を使用し案内していた。企業にも声掛けしほとんどの企業は参加してくれた。ただ企業は移転や人事異動などで変化することがネックである。積み重ねで皆が理解し参加してくれたのではと思う。声掛けが重要である。

質 問

組織としての課題と、今後の防犯性を高めるために必要なことを教えて頂きたい。

回 答
(新都心安全なまち
をつくる会)

今までは企業と密に連携をとっていたが、企業が発展しすぎて実績づくりを優先してきており、地域優先でなくなりつつある。お互いのメリット、デメリットを修復しながら話し合いをしていきたい。以前は小学校の校長と密に自治会長と連携してきたが、校長によっては対応が違い最近では少なくなってきた。小中学校区をメインとして、登下校での緊急時など学校との連絡を密に連携していくことが重要である。

3) - 2 出張定例会について（防災）

①宜野湾市 伊佐区自治会

②宜野湾市 市民防災室

○開催日時：平成 30 年 12 月 18 日（火） 19：00～20：50

○開催場所：伊佐区公民館

○内 容：防災に関する取り組みや事例紹介
意見交換

○参加者：10 名（うち、NB ミーティング 5 名）



写真：取り組み説明の様子



写真：意見交換の様子

【取り組み説明・意見交換の概要】

取り組み説明①

（伊佐区自治会）

○防災に関する取り組みのきっかけ

- ・伊佐区 6 班の集まりの中で津波が発生した際にどこに避難すればよいかということが話題にあがり、その場にいたチリ地震の体験者から当時の話を聞いた。そして、伊佐区でも津波の時に高い建物に避難できるように避難ビルが必要だということになり、自治会を中心に避難ビル指定の要請書を平成 18 年 2 月に区民 1,266 名の署名をつけて市に提出した。
- ・その後、伊佐区公民館で避難訓練の実施を呼びかけたところ約 400 名が参加した。予想より参加者が多く、公民館に入りきれなかったので広場で対応した。そこで、伊佐区の住民は津波に対して不安があるということが分かり、平成 18 年に宜野湾市内で 2 番目に自主防災組織を立ち上げた。

○避難訓練をして何が分かったか

- ・伊佐区住民は避難する際、高台へは県道 81 号線への一本道しかない。また高齢者は避難に時間がかかる。そこで、避難時、基地の中を通れないか市に相談をしたところ、市を通じて米軍から了承を得られたので協定締結した。平成 24 年には基地の中を通して避難訓練を行ったが、海拔 4m の平坦地が続いていた。その結果、喜友名区への一本道（伊佐交差点を通る）の方が早いのではという結論に至った。

○参加者の現状

取組み説明②
(市民防災室)

- ・伊佐区は他自治会と比べて避難訓練の参加率が高い。海に一番近く津波の危険性を認識しているためだと考えている。
- ・毎年避難訓練参加者が固定化しており、参加者の高齢化が進んでいる。その為、体への負担が大きくなり大変なので参加しない人が出てきた。しかし、それでは緊急時に体が自然に動かない。そこで普段から避難訓練する必要がある。平成 24 年に避難ビルの指定を頂き、現在 12 箇所、災害時の避難ビル協定を結んでいる。災害はいつ起きるか分からないため、家の近くに避難ビルがあれば、高齢者や体の不自由な方でもあまり歩くこともなく避難ビルに行くことができる。

○現状の課題とは何か

- ・参加者数が少なくなってきた。
- ・伊佐区の避難所として普天間中学校が指定されているが遠い。
- ・基地内は歩いて通行するだけの協定であり、そこに留まることはできない。
- ・伊佐区には防災士が 6 名いる。地域にそういう方々を更に増やしていくことで、その家族も防災の意識が高まる。
- ・防災士の講習は沖縄県では開催されないため、九州まで行く必要がある。沖縄で受講できれば更に防災士が増え、安全安心な宜野湾市ができるのではと考えている。

○まちづくりへのアドバイス

- ・普天間飛行場の中に入って現場を見せれば、まちづくりのイメージが浮かんでくるかと思う。飛行場内には緑も残っており、文化財や泉、洞窟もある。

○宜野湾市で想定される災害

- ・地震、津波、台風、集中豪雨、崖崩れなどが想定される。また、自然災害とは違うが過去の戦争による不発弾や、普天間基地があるが故に航空機災害も想定される。それ以外にも火災や北朝鮮のミサイルなども宜野湾市で想定される災害である。

○住民の取組み

- ・災害対策基本法の中で、飲食物などの備蓄や防災活動への参加など、住民の責務が定められている。
- ・食糧は災害時救援が来るまでの 3 日分程度備蓄することが望ましい。
- ・災害時の備えをすることは自分自身を守ることに繋がり、それがあって初めて家族や隣人を助ける側に回ることができる。（「自助」があつての「共助」）

○災害に関する宜野湾市の取組み

- ・23 行政区ある中の 10 行政区が自主防災組織を結成しており、津波浸水想定区域に含まれる自治会をはじめ、西海岸に近い自治会は、自主防災組織を結成済である。
- ・大規模災害にはハード事業に限界があるため、防災から減災に向けた取組みが必要となる。（自主防災組織の設立、ハザードマップ作成、避難訓練、防災教育等）
- ・防災無線や避難ルートの確保、避難場所の整備などは宜野湾市の防災マップにも記載されている。避難訓練について、2 月に西海岸地域を中心に津波避難訓練を

		行っており、11 月には広域の地震津波避難訓練なども行っている。 ・避難ルートの確保として西海岸地域は津波が発生した場合、浸水してしまう区域が多く、伊佐区に至ってはほとんど浸水してしまう。 ・津波時は米軍基地内を避難経路として通行できるように、米軍と協定締結している。 ・西海岸津波一時避難ビルの指定がなされている。(現在 23 棟、24 棟になる予定) ・電柱には海拔表示標識を 5m 以下が赤、6m 以上 19m 以下が黄色、20m を超え比較的安全と思われる区域は青色の標識を貼っている。 ・伊佐区は独自で整備した海拔表示板もある。 ○今後の取り組み ・防災マップの配布継続、防災情報システムの整備、防災行政無線デジタル化、海拔表示板や津波避難誘導表示板の設置を行う予定である。 ・災害そのものを防ぐことはできないため日頃からの備え、減災の取り組みが必要となる。
意見交換		
質問		冠水被害についてどう考えるか。
回答	(市民防災室)	冠水自体に怖いイメージを持っている人が少ないと思うが、1 箇所到大雨が降り続くことで洪水を引き起こし、ひいては土砂災害や浸水被害にも繋がる。そういう箇所を家族間で話し合うことも防災意識の向上につながると考えている。危険の想定は常にしていた方が良い。
質問		避難ビルについて、住民への周知はどの程度はかられているか。
回答	(伊佐区自治会)	避難訓練を実施する際は、新聞に折り込みを入れたり、避難場所などを記載したマップを自治会加入者以外の区民にも配布したりしているが、普段自治会活動に参加されない方は避難ビルの位置などを把握していないと思われる。そのため、遠くからみても避難ビルだと分かるように、大きな表示板を設置して頂けると助かる。
質問		西海岸地域避難訓練について、毎年 2 月に実施されているが、避難者の受入れ側としての訓練も必要ではないか。また「避難訓練の日」を設定するなど、区民がより多く参加できる方法が他にあるのではないか。
回答	(市民防災室)	訓練の件について、西海岸地域が津波浸水の区域になるので避難訓練を行ってきた。他の行事も集中する季節と思うが、この日だけは空けておくなどすれば参加人数も増えるのではないか。内陸部にも自主防災組織が設立し始めたことに伴い、内陸部では受入れ側としての訓練や密集地のため火災訓練が実施できないかなど、自主防災組織を立ち上げたところに声を掛け、合同訓練ができないか話を進めている。今後、自主防災組織を増やし市全体としての防災訓練ができればと考えている。西海

		岸では地震津波から逃げる訓練を行い、内陸部では避難してきた方を受入れる訓練が出来るように進めていきたい。
質	問	海拔表示標識の設置について、設置するにあたり、設置場所などの基準を設けたのか。
回	答	伊佐区では、車両を対象に見やすい高さを設定し、目に留まりやすい電柱に取り付けた。地域の人とは勿論のこと、通りすがりの人にも危機意識を持たせる意味で付けた。
回	答	市民防災室では海拔表示標識を 100 箇所設置しているが、今年度は西海岸地域を中心に、市道の交差点などの見通しの良い場所に自立柱を建てて、避難所と避難場所を表示した避難誘導表示板（5 カ国語、40cm×60cm）の設置を今年度中に 40 箇所行う予定である。多言語表示にすることで、外国観光客にも対応可能となる。また、森川公園に設置する誘導表示板については、太陽光発電を利用して、夜中でも見えるようにする予定である。その他の誘導表示板についても、蓄光、蛍光表示により、少しでも見やすくする予定である。県道の街灯にも 5 箇所程度設置している。伊佐区自治会は避難所なので表示板（横 3m×縦 1.2m）を取り付ける。
質	問	景観に配慮したまちづくりが行われており、電柱が少なくなる中、電柱に取り付ける海拔表示標識などは今後どうなるのか。
回	答	災害又は防災・減災という観点からまちづくりを考えると、電柱地中化はとても重要で視界が広がるが、津波の危険性のある地域ならば避難場所や避難ビルの誘導表示が分かるように、自立柱を建てる必要があると考えている。
質	問	現在市が指定している避難所は、災害時に市内の避難対象者全員を収容することが可能なのか。
回	答	指定避難所が 59 箇所あり、小中学校体育館をはじめ、公民館や公共施設を指定している。市内全域に設けているが、避難所は災害ごとに必要に応じて開設していくこととなる。伊佐区は海岸側にあり津波が来たら 1 番危ないところだが危機意識を持って対策を進めていけたら良いと考える。
質	問	誰が見ても避難ビルと分かるよう、目立つ色にするなどしておく必要がある。表示方法が大きな課題だと感じる。 避難訓練をなされた経験上、子供や年配の方が避難しやすい道はどういうものがあるか。跡地利用を考えるうえで参考にさせて頂きたい。海側は津波が来たら避難するには時間がかかる。ビルに避難した人は防災機能がある公園に誘導されると思う。誘導する側として公園も具体的な位置はない。避難経路を設けたほうが誘導しやすいかと考えるが、どういう避難路がベストか。
質	問	広くて平らな道だと考える。暗闇だと少しの段差でもつまずく、濡れ落ち葉が道に

質

問

落ちていると滑りやすい。新しく道を作るなら整然とした道が良い。伊佐区から国道５８号を越えないと高台に行けない。高架橋を作ってほしいという人もいるが時代の流れではない。地下も冠水の懸念がある。避難ビルは高い建物が理想である。伊佐区は国道５８号を越えても津波は来る。伊佐区民は逃げる場所が少ない。喜友名区の坂道まで行かなければならない。

回

答

(市民防災室)

返還後、避難する側として基地内を通るルートはどこが良いと考えるか。

普天間飛行場は高台で平坦地であるイメージを持っているため、見通しよく広い道を避難路とすればよいのではと考えている。道幅がきちんと整っており近くの池であったり土砂がくずれそうな地域の地点がないような見通しの良い場所を避難ルートとして考えれば良いと思う。

4) 今年度テーマのとりまとめ

NBミーティングは、今年度「防犯・防災に強い住環境」をテーマに定例会で議論を行い、また、出張定例会や先進地視察会、防犯まちづくりワークショップで得られた意見を踏まえ、イラストで取りまとめた。



目次

1. 平成 30 年度の NB ミーティングの目的・背景
2. 社会状況
3. 検討フロー
4. 防災に強い住環境について
5. 防犯に強い住環境について
6. NB ミーティングの考える「防犯・防災に強い住環境」とは

1. 平成 30 年度の NB ミーティングの目的・背景

(1) 目的

平成 30 年度の検討テーマである「防犯・防災に強い住環境」について、市内各種団体から意見を聴き、NB ミーティングで審議し、市民目線で考えるまちづくり策の策定を行う。

(2) 背景

1) 前年度の議論

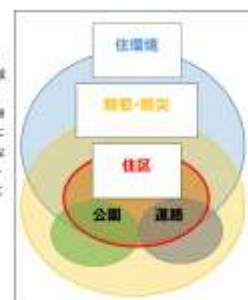
豊洲開発行跡跡地と絡め、市民に身近で分かり易いテーマとして「住環境」を平成 30 年度より検討していくことで決定した。

2) 第 2 回定例会での議論結果

住環境の整備に求められる 5 要素（安全性、保潔性、利便性、快適性、持続可能性）のうち、安全性を中心に「防犯・防災に強い住環境」で決定した。

3) 第 3 回定例会での議論結果

「防犯・防災に強い住環境」の中で特に、住民が身近な地域の危険な箇所などを「見付く」ことが大事という観点から、身近な地域として住区を中心に「住区と公園」「住区と道路」などの関係性やあり方から防犯・防災について議論を進めていくこととなった。



テーマに関連して、初案が起りやすい状況や法律の全国の実況状況、自然災害の発生状況と関係性についてまとめました。

【资料来源】《中国统计年鉴》、《中国统计公报》、《中国统计摘要》



【しんじつで食料削減 食料消費抑制、買取り取り戻す】

市内に設置している材料とすりばねの回収をしように取り掛かった。おかげで、食料品
地域の回収をしようとし、Eの出したのは食料品が数分で終わってしまふ化によりお金の回収の
実行、作業負担軽減させるほか、食料品の廃棄も減らすことができるとして事業が成り立つ。

昌日本東南地圖 (平成 30 年 7 月)

【新刊】『中国の歴史と地理』(全2冊) 中国の歴史と地理の発展を、時代別・地域別に解説。中国の歴史と地理の発展を、時代別・地域別に解説。中国の歴史と地理の発展を、時代別・地域別に解説。

【**取材**】新潟県立の多くの公立高校が参加を申し合わせたため、多くの師生が遠征費を負担し、新潟1市街はほぼすべて押さえる人であつた。総勢200人の時が最も盛況の宴に集結したとき、事件は軒を並べざるを得ない一歩を踏み出すやいなや幕が下り、決着の宴の場になった。翌日午後11時の豪雨が原因だったグループが、さらなる決着と賛同の席を求め、**【運動部の野望】**アールの外野にあるボックシング場が約4日メートルにわたって遊学塾に借りた。

敷地利用計画中図と取りまとめで、低天竺飛行場跡地における「旧跡」養生池公園では、「区域利用権限の導入」が位置付けられています。

今年度のそれぞれの活動を通して学ばれた意見を、最終的なとりまとめまでのフローを以下とします。



4-1. 実働会下制げられ仕度

4-1. 実働会下制げられ仕度



「防災に強い住環境」の考え方			
	問題点	課題 → 対策	方針
避難所	● 広さが確保しており、緊急要員が入れない	⇒ 避難場所の広さ (12㎡以上) ⇒ 避難場所による避難の確保	被災時を想定した安全・安心な “道”づくり
	● 国道 58 号線より東側へ避難しにくい	⇒ 東海中継から西側方面への避難道の確保 ⇒ 道路を活用した避難場所への誘導	
	● 避難場所への案内・サインがなく、場所がわからない	⇒ 避難場所までの案内・サインの設置 ⇒ 避難場所へのサイン・ピクトグラム等の設置	
	● 避難場所が限られており、避難の分散が難しい可能性がある	⇒ 避難所、避難場所を想定したまちづくり ⇒ 避難場所を定めた避難計画	
避難所・避難場所	● 避難場所やカマドベンチ等が置いてある公園がない	⇒ 公園利用の公園整備・避難場所の指定 (避難場所が多い方がよい)	防災機能が充実した“公園”づくり
	● 大雨時、排水不足による浸水被害がある	⇒ 大雨時の大雨災害に強い住居の整備 ⇒ 浸水被害の避難場所の確保 ⇒ 公園の広さを活用した避難場所の整備 (1・2F が駐車庫、避難所、倉庫、3F が広場)	
防災・減災	● 河川による水害への影響により、水害の発生もある	⇒ 工事後の水害への配慮した避難場所の確保	防災・減災を意識した “住宅地”づくり
	● 大雨時に火山噴出や山崩れ、土砂が降りる	⇒ 避難場所の安全性確保と避難所への誘導	
	● 地震・津波の知識と対応、行動がわからない	⇒ 防災情報の周知徹底・防災内での共有 ⇒ 災害時の避難場所等について案内・共有	
	● 避難所の建設は地震被害が全国に広がっている、構造的 (ビロテック) にも地震に強いため、地震の対策が重要	⇒ 地震に強い住宅地の形成 ⇒ 地震被害の軽減を促進する	
防災・減災	● 地震による洪水の被害 (浸水被害)	⇒ 公園に強い避難所の整備	自然災害に関する情報の周知・共有 による“防災”への意識づくり

4-2. 出張説明会で挙げられた意見			
項目	意見	対応	対策
防災まちづくりの視点からのアドバイス	● 日にも平成 30 年 12 月 18 日 (火) 会場：伊地区公民館 講師：伊地区に関する各機関・関係の取組み 講師：宮城県、市、県防災室 宮城県、市、県防災室 伊地区公民館 会長 宮城氏		
避難所	● 避難所としては、避難のしやすい広さで平らな道がいい。 ● 市道に自立柱を立てて、避難誘導表示板で誘導を図り、観光客に多量に危険から避難することを目指す。 ● 避難誘導表示板は、車輪を邪魔に見やすい高さで設置し、見やすい電柱に取り付け、来訪者や通行人も危険意識を持たせる。		
公園	● 太陽光の避難誘導表示板で夜中も見えようにする。		
その他	● 遠くから見ても避難ビルだと分かるように大きな表示板の設置があればいい。 ● 電柱地中化は視界が広がる、津波の危険性ある地域ならば避難場所や避難ビルの誘導表示が分かるように自立柱を立てる必要がある。		

4-3. まちづくりイベントで挙げられた意見			
項目	意見	対応	対策
【Aグループ】			
避難	● 海側から来客に誘導する道がない、狭い		● 避難場所の確保 ● どこからでも津波避難経路 (30~40 分程度) で逃げ込める避難ルートの確保 ● 避難場所の確保 ● 徒歩で逃げる避難者への配慮、バリアフリー化 ● 避難所の確保
公園			● 移動式のトイレや更衣室 (100~200 番)、売店、トイレなど ● トイレや更衣室になるベンチの設置 ● 子供連れのストレス軽減が図れる公園 ● ヘリポートの確保 ● 災害時には、仮設住宅が建てられる大規模な広場
建物や施設	● ガラスは割れて危ないに降ってくるため危険 ● 避難所が不足している ● どれが避難所かわからない、無 ● 誰がどういった避難方法が必要なのかわからない		● 災害に強い建物 ● 防災について学べる体験型施設 (どのくらい壊れるか試して知りたい) ● 避難所やエレベーターなど、バリアフリー化の推進 ● 病院、医療機関があるという、安全性がある場所
その他	● 災害の危険意識が低い ● 海側と内陸部の防災意識の違いがある ● 実際どういう人が助けてほしいかわからない ● 防災が関係ない ● 周知がされていない (話さずからなんとかすればいいや・・・という意識の差)		● 行政が避難所等について説く ● 説が聞けない人、障害を持っている人への支援が必要。⇒ 避難などコミュニケーションの取り方の周知 ● 周辺地域の防災意識になるように ● 避難所作りとして、ストレスが軽減 ● 避難所作りと地域や保護者の連携

表-1 定例会で挙げられた意見

表-1 定例会で挙げられた意見

© 2004 Blackwell Publishing Ltd *Journal of Internal Medicine* 255: 103–110

14

1-5

第4回 おたてのまちベースとーディング定例会 「数値に強い仕組み」に関するWU勉強会と方向性(第4回)

「防犯に強い住環境」の方向性（案）

夜間及び道路の利用状況を
想定した安全・安心な

人が集い自然に見守れる
“公園”づくり

5-2. 出張定例会で挙げられた意見

防犯まちづくり、防犯等	防犯まちづくりの観点からのアドバイス 日にも：平成 30 年 10 月 23 日（火） 会場：東海市上下水道局庁舎3階 議題：防犯に関する各種議、防犯の取組み 議題：沖繩県東部警察署生活安全課 安全なまちづくり推進課 園山氏 防犯の安全なまちをつくる会 会長 上原氏 事務局 池田氏
	● 防犯カメラの設置に加えて「防犯カメラ設置」の表示を行う。 ● 自治会や商店会が清掃活動や水やりをして公園と関わる。 ● 防犯カメラの設置に加え、周辺には防犯カメラを設置する。 ● 地域で声掛けを実施し、子供のたむろや浮浪者の発生を防ぐ。
	● 店舗、公共団体、学校等もコミュニティ活動の参加を促す。 ● 国からの委託を受けの広報活動や、企業には外国語での万引き防止アナウンスの実施。 ● 通りが通れるまちづくりよう、基地道路から十分に検討を行う。（地域内ルールの設定など）

18

5-3. 先進地視察会の概要及び視察通しての4日ミーティングの意見

リフレ神楽坂（大田区神楽坂）

視察理由：新築約 47.9ha の民間による開発地で、都区面積約 600 区画の住宅地である。各種防犯に配慮（防犯カメラ、道路内を走り回らせない道路計画、24 時間警備員の常駐など）しており、ソフト面だけでなくハード面においても、防犯を考慮したまちづくりがなされている。



資料：新築ハウス（後）生活環境研究所 2009.3.7 より

まちの特徴：

- ・光ファイバーとパソコンを全戸導入し、WiFi カメラを用いて防犯をしながら家中を見守れる環境にする事を考えた。監視という感覚ではなく、目で見るイメージである。
- ・全戸にセキュリティシステムを導入し、有事の際にすぐ対応できるよう、まちの中に防犯用を設置して 24 時間常駐する警備員を配置した。
- ・住民専用のサイトを設け、コミュニケーションを図る事ができるようにしている。入居者には IP 電話に加入してもらい、テレビ電話で顔を見ながら話せる環境を整備した。
- ・防犯ガラスを全戸使用しており、まちの中はホームセキュリティが設置されているので防犯が思いにくい家となっている。
- ・全戸光ファイバーで通信システムが整っているという理由から、緊急地震速報システムの東部東部の即時としてリフレ神楽坂が選ばれた事もある。
- ・購入者について、警察や消防の方が結構購入される。防犯が不測で家を夜に留守にする事が多いため、セキュリティが充実して家族が安心して住める事が理由である。

参加者意見：リフレ神楽坂では、防犯セキュリティの面と、家族が安心して住める住環境や道路設計などの点に興味を持った。その中で、新しく出来るまちで早期に自治会組織を立ち上げ、当初からまちのコンセプトなど問題を得ることも大切な事だと感じた。そして、金銭的に防犯意識を持たせるために、防犯講習会の開催、季節ごとのイベントを通して防犯意識が良くなり結果的に防犯に繋がる方法があることを学んだ。その他として、住民が自主的に防犯に力を注いでいることが、本地域の安全なまちづくりにつながっていると感じた。

19

5-4. 総ミーティングの考える「防犯に強い住環境」とは

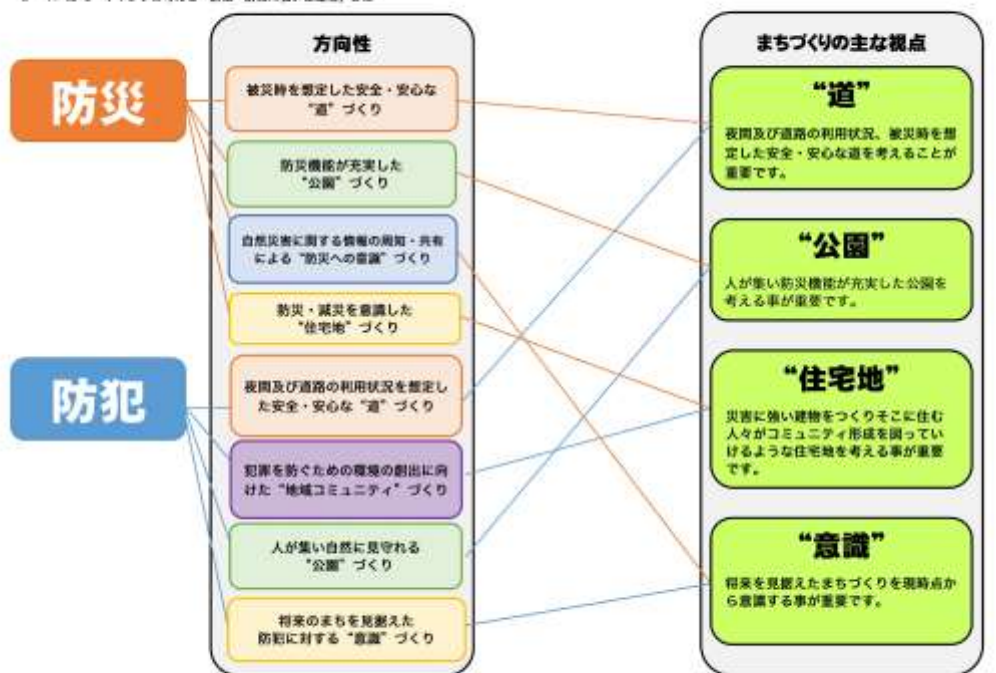
	問題点	課題	対策案
道路	● 防犯灯が少なく夜間はとても暗い地域がある。居住上の不安がある。	◇ 夜多く暗く安全な歩行空間の確保を図る ⇒防犯灯（LED）の増設を図る	「防犯に強い住環境」の方向性（案）
	● 歩道が狭く、車がスピードを出して通る危険な通学路がある。	◇ 安全・安心な道路の整備を図る ⇒歩車分離、スクールゾーン等を考慮した安全な歩道の確保、交差点を少なくする	
	● 学校周辺に児童の送迎車が停車する事で後継車・対向車の通行の妨げになり、登下校する児童や通行人が危険な場所がある。	◇ 警備警察の対策が必要となる。 ⇒防犯カメラの設置に加えて「防犯カメラ設置」の表示を行う。 ⇒防犯カメラの設置に加え、周辺には防犯カメラを設置する。	
公園	● 警備警察として、登下校時の児童・生徒に対して不審者からの「声掛け」が手早い。	◇ 警備警察の対策が必要となる。 ⇒防犯カメラの設置に加えて「防犯カメラ設置」の表示を行う。 ⇒防犯カメラの設置に加え、周辺には防犯カメラを設置する。	夜間及び道路の利用状況を想定した安全・安心な「道」づくり
	● 高層ビルが公園が見えにくい。夜は不気味で聲は不良のたまり場になっている公園もある。	◇ 死角を減らし、聲やかな雰囲気づくりを図る ⇒防犯カメラの設置に加えて「防犯カメラ設置」の表示を行う。 ⇒地域の人が公園で遊びたくなる・活動したくなるような環境づくり。	
	● 遊具もなく誰も利用しない公園があり、その近く小さな公園周辺の家では何層も立ち昇る被害があった。	⇒住民が地域の公園を自分で守り育てよう意識することが重要。自治会や周辺企業が清掃活動や水やりをして公園と関わる。 ⇒住宅は公園が見えるような作りを行い、自然監視性の確保を行う ⇒公園の周囲は、ブロック塀ではなく生垣などを使用し、見通しがよくするように。既存公園の整備。 ⇒地域で声掛けを実施し、子供のたむろや浮浪者の発生を防ぐ。	
その他	● 新たな街が出来た際に、地域コミュニティの活性化の可能性があり、防犯の取組み等に懸念がある。	◇ 地域のコミュニティの育成 ⇒地域のまわりへの呼びかけ広報などを行い、住民の繋がるキッカケの場へ誘導を図る。 ⇒企業、公共団体、学校等もコミュニティ活動の参加を促す。 ⇒住民間でコミュニケーションを図り、まちを守っていく意識づけ ⇒警備員が巡回するまち	人が集い自然に見守れる「公園」づくり
	● 外国人観光客が被害者や加害者になることが多くなっている。	⇒防犯カメラの設置に加えて「防犯カメラ設置」の表示を行う。 ⇒防犯カメラの設置に加え、周辺には防犯カメラを設置する。	
	● 防犯に絡み、事件事故が手早い。	⇒防犯カメラの設置に加えて「防犯カメラ設置」の表示を行う。 ⇒防犯カメラの設置に加え、周辺には防犯カメラを設置する。	

数字：4日ミーティング定例会からの意見
オレンジ：先進地視察会からの意見

20

21

図-1. N6ミーティングの考える「防災・防犯に強い住環境」とは



22

23



24

25

5) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

- 定例会活動を支援した事で、NBミーティングが今年度テーマ「防犯・防災に強い住環境」について検討し、取りまとめる事ができた。
- ・これまでの会議形式では、意見をする人が限られており、少人数でありながらも意見をせずに会が終わる事もあった。今年度はワークショップ形式に変えてテーマを身近なテーマに絞って進行を行ったところ、参加者から万遍なく意見が出され少人数でも多くの意見収集や活発な議論に繋がった。
- 市ホームページへの定例会案内掲載により新規会員があった。
- ・市ホームページや情報誌「まち未来だより」、イベント等で広く周知を行った事で、新たな定例会参加者が増えた。
- 出張定例会の実施を支援した事で今年度テーマに関する情報収集を行う事ができた。
- ・昨年度からの取組みとして、現状の定例会参加者数では活発な議論や意見交換が難しいため、他団体へ伺い、跡地利用に関する質問や提案に関する意見を集め、定例会参加者以外の市民の意見も取りまとめる事ができた。今年度もそれを継続し、新たに4団体と意見交換を通して今年度テーマに関連した多くの意見を集めることができた。
- 市民に対し、跡地利用に関する情報や行政・NBミーティングの取組みを発信する機会を設ける事ができた。
- ・今年度、防犯・防災に強い住環境について定例会、他団体との意見交換、防災まちづくりワークショップを通して多くの市民の意見を集約ができた。その結果をNBミーティング自らまち未来だより」を通して情報発信する事ができた。

【今後の課題】

- 定例会の進め方を検討し、内容の充実を図る必要がある。
- ・今年度は、ワークショップ手法を取り入れ意見が出やすくなったが、これまでにイベントで行ったレゴブロックを使った検討などを取り入れることで、議論の深堀に繋がると考えられる。また、イベントの結果の中には若い世代が考えた活動提案もあることから、その中から今後の活動展開を考える事も重要と考えます。新規会員が入っても、取組み内容が楽しくなければ継続はないと考えるため、上記のような新たな取組みや展開を考える必要がある。

(2) イベントの企画・開催

1) 取組みのポイント

市民に対して跡地利用に関する情報や行政・NBミーティングの取組みを発信し、跡地利用への興味関心を高めるため、市民が気軽に訪れやすい「跡地利用情報発信の場」として、市役所ロビーにて一定期間パネル展・動画上映を開催した。また、NBミーティングの今年度テーマのうち、防災に関し市民から意見集約を図るため、NBミーティング主催の「防災まちづくりワークショップ」を支援した。

2-1) 開催概要（パネル展示・動画上映）

○開催日時：平成31年2月18日（月）～3月1日（金） 8:30～17:15

○開催場所：宜野湾市役所 1F 市民ギャラリー

○内 容：動く！普天間飛行場跡地未来予想図

動画上映（中央エリア・北側エリア・南側エリア等）

本イベントの趣旨及びワークショップの開催案内 パネル

NBミーティングの活動紹介 パネル

若手の会の活動紹介 パネル

「平成29年度児童・生徒絵画コンクール」の開催概要 パネル

まちづくり講座の概要 パネル

○アンケート回答者：108名

【パネル展・動画上映 風景】



【パネル展・動画上映 内容】

普天間飛行場跡地利用まちづくりイベント (No.1)

普天間飛行場返還後のまちづくりについて考えてみませんか？

基地政策部まち未来課では、宜野湾市の中心に位置する普天間飛行場が返還された後の跡地利用について、地権者や市民の関心・関心を高める取組を行っています！

本パネル展示に加えて、以下の「防災まちづくりワークショップ」や「まちづくり講座」もこの取組の一環として実施します！

防災まちづくりワークショップ

テーマ：『子どもから大人まで一緒に考えよう！防災に強いまちづくり』

日頃の生活から普天間飛行場跡地のまちづくりまで、防災の視点で考えるワークショップを開催します。子どもから大人まで楽しめる内容ですので、ぜひご参加ください！

2019年 3/3 (日)
13:00～15:00 (受付：12:30～)

対象：小学校高学年以上（一般市民の方も参加可）
主催：ねたてのまちベースミーティング
場所：宜野湾市立中央公民館2階集會場

第4回まちづくり講座

テーマ：『市民参加まちづくり普天間モデルの考察』

～駐留軍用地の跡地利用は他人事ではない！～

普天間飛行場の返還後のまちづくりについて、地権者や市民が学べる講座を開催中です！

皆さんと一緒に普天間飛行場跡地の未来をつくっていくために、今年度よりまちづくりについて学べる講座を開催しております。

2019年 2/23 (土)
15:00～16:30

講師 池田 孝之様
琉球大学名誉教授
NPO 法人沖縄の風景を愛する会理事長

宜野湾市社会福祉センター2階ホール

【No.1】

普天間飛行場跡地利用まちづくりイベント (No.2)

ねたてのまちベースミーティング (通称：NB ミーティング) が活動中！

普天間飛行場跡地の開発が行われると、市民は大きな影響を受けます。私たち NB ミーティングは、周辺市街地のまちづくりを含めた普天間飛行場の跡地利用に関する様々なテーマについて市民目線で検討し、イベントの開催や情報発信などを行っています。

年間のカalendarミーティングの活動

- 毎月第3火曜日
- 午後7:00～午後8:50
- 宜野湾市役所内

●市民や社会・地権者組織との意見交換会

●まちづくり先進地へ情報収集・知識の習得

●まち歩き・座談会

●タイムカフェ

●不定期開催

●ゲストスピーカーの招きによる勉強会

●大学生と連携した勉強会

平成30年度検討テーマ「防犯・防災に強い住環境」

市民にとって身近なテーマとして検討を行いました。検討にあたり、近年発生する犯罪や災害の現状、防犯・防災の考え方、防犯活動や防災活動に取組む団体との意見交換等を行いました。

「NB ミーティング」に参加しませんか？

日 時：毎月第3火曜日 午後7時～午後8時50分
場 所：宜野湾市役所3階3号 第一会議室
対 象：市内住民、市民のみならず
事務局：宜野湾市基地政策部まち未来課
連絡先：098-893-4431 (直通)
メール：nbmeeting@city.yonagoi.jp
※参加費は無料です。お申し込みは、電話またはメールにて、下記までお願いします。

【No.2】

普天間飛行場跡地利用まちづくりイベント (No.3)

近年発生する犯罪や災害の現状

犯罪

宜野湾警察管内(宜野湾市・中城村)における刑法犯、罪種別認知件数(平成28年1月～12月)

身近な地域でも年間614件の事件が起きています！

災害

日本各地で発生した災害に対して生活に及ぼした状況

台風 地震 津波 土砂崩れ

災害はいつ起こるか分かりません！

②防犯・防災の考え方

防：機会犯罪の発生要素

防：災害への対策

③防犯活動や防災活動に取組む団体と意見交換

平成30年度の取組によって得られた「防犯・防災のまちづくりの方向性」

NBミーティングの目的を明らかにしました！

【No.3】

普天間飛行場跡地利用まちづくりイベント (No.4)

NBミーティングで話し合った普天間飛行場跡地にできるまちのイメージ！

まちづくりの方向性

人が集い自然に見守れる“公園”づくり

夜間及び道路の利用状況を想定した安全・安心な“道”づくり

防犯

防犯・防災を意識した“住環境”づくり

自然災害に備える環境の整備、内蔵による“防災への意識”づくり

防犯意識が育まれた“公園”づくり

防災対策を想定した安全・安心な“道”づくり

まちづくりのイメージ

透水性舗装の道高イメージ

夜でも明るい公園イメージ

災害対応型の公園イメージ

【No.4】

普天間飛行場跡地利用まちづくりイベント (No.5)

まちづくり活動組織の取組みについて 普天間飛行場の跡地を考える若手の会 (若手の会) についてご紹介！

本組織は、「普天間飛行場の跡地利用を成功させるためには、若い世代が主体的に考え、行動していくことが重要」との地主要求から発案・創設を受け、宜野湾市の「関係地域等若者の意見聴取・活動推進委員会」の中で平成14年に発足した組織です。地権者等の意見聴取として、普天間飛行場の跡地利用に対する意見を発信することで、より良いまちづくりを実現することを活動の目的としています。

私たち「若手の会」では、こんな「わ」をつくっています！

探究の「話」

● 普天間の跡地利用について、若手の会、関係機関の担当者などから、意見交換や勉強会を開催し、若手世代の意見を積極的に発信しています。

● 普天間の跡地利用について、若手の会、関係機関の担当者などから、意見交換や勉強会を開催し、若手世代の意見を積極的に発信しています。

交流の「和」

● 普天間の跡地利用について、若手の会、関係機関の担当者などから、意見交換や勉強会を開催し、若手世代の意見を積極的に発信しています。

● 普天間の跡地利用について、若手の会、関係機関の担当者などから、意見交換や勉強会を開催し、若手世代の意見を積極的に発信しています。

探究の「話」

● 普天間の跡地利用について、若手の会、関係機関の担当者などから、意見交換や勉強会を開催し、若手世代の意見を積極的に発信しています。

● 普天間の跡地利用について、若手の会、関係機関の担当者などから、意見交換や勉強会を開催し、若手世代の意見を積極的に発信しています。

交流の「和」

● 普天間の跡地利用について、若手の会、関係機関の担当者などから、意見交換や勉強会を開催し、若手世代の意見を積極的に発信しています。

● 普天間の跡地利用について、若手の会、関係機関の担当者などから、意見交換や勉強会を開催し、若手世代の意見を積極的に発信しています。

わたしたちの考え。

【No.5】

普天間飛行場跡地利用まちづくりイベント (No.6)

普天間飛行場跡地 まちづくり講座 を開催しています！

まちづくり講座とは？

普天間飛行場の遠退後のまちづくりを進めるにあたっては、地権者や市民の皆さまの参加がとても重要です。皆さまと一緒に普天間飛行場跡地の未来をつくっていくために、今年度より、まちづくりについて学べる講座を開催しております。

今年度は全4回の講座を予定しており、これまでに開催した3回の講座概要をご紹介します。

第1回 まちづくり講座 「まちは誰が作るのか？」

～普天間飛行場跡地利用に係る合意形成活動の経緯と今後の市民参加の意義～

- 普天間飛行場の跡地はディズニーランドの約2倍、文化財の数は約100ヶ所、跡地利用による経済効果は、都市計画や都市公営事業費(約1,000億円)を超えるものと推計。その跡地利用は日本初の都市型大規模「新」開発となり、その経済効果は約4,000億円の直接的効果と約35,000人の雇用創出が期待。
- 地元企業だけでなく、海外企業(「オーナーシップ」)として進出するようになり、同じ島の人とコミュニケーションを通して(「インバーンシップ」)、互いにネットワークを作り、まちづくりに参画する(「パートナーシップ」)という合意形成を促していきたい。
- まちづくりの成功の鍵は「ひとづくり」であり、ひとづくりとまちづくりの両方を同時に進めたい。そして、それを「普天間モデル」として発信できるとき、まちづくりが成功したと言えるのではないか。

日時：平成30年10月13日(土)
午後3時～午後4時30分
場 所：宜野湾市議会2階 第2会議室
講 師：上江洲 純子 様
沖縄国際大学教授

第2回 まちづくり講座 「これまでの駐留軍用地跡地利用と市民参加型まちづくりの事例」

～市民がまちづくりに参加しないとうなる？～

- 小笠原諸島に設置された基地跡地は、まちのランドマークになりつつある。基地跡地は、市民がまちづくりに参加しないとうなる？
- 浦添市では、基地跡地を2つの民間企業に売却し、民間企業がまちづくりに取り組んでいる。基地跡地は、市民がまちづくりに参加しないとうなる？

日時：平成30年11月17日(土)
午後3時～午後4時30分
場 所：宜野湾市議会2階 第2会議室
講 師：渡辺 孝之 様
琉球大学名誉教授
NPO法人沖縄環境文化財団代表理事

【No.6】

普天間飛行場跡地利用まちづくりイベント (No.7)

普天間飛行場跡地 まちづくり講座 を開催しています！

第3回 まちづくり講座 「市民参加のまちづくり成功例」

～市民参加はどのようにして進められたのか～

日時：平成30年12月15日(土)
午後3時～午後4時30分
場 所：宜野湾市議会2階 第2会議室
講 師：渡辺 孝之 様
琉球大学名誉教授
NPO法人沖縄環境文化財団代表理事

第3回目では、市民参加によるまちづくりの成功事例として「浦添市 仲間地区」へ見学に訪れ、その後、市民参加が始まった経緯や活動していくにあたって仲間自治会との対談を行いました。

仲間地区について

- 仲間地区は、浦添市の中の浦添(ドゥームラ)とも呼ばれ、浦添グスクをクサティ森(森の奥に位置する森を指す)として古くから浦添市の行政・文化の中心地として発展してきた地区。
- 歴史をたどると、浦添グスクの跡地に、浦添グスクの存在を市民が認識し歴史文化を活かしたまちづくりに関する機運が芽生え、歴史的な街並みの形成に向けた取り組みが実現。
- 浦添市は、まちづくり計画における重要な先導的なモデル地区として「重点地区」に設定。

仲間自治会のまちづくり活動

- 緑の植え付け活動
 - 緑の植え付けを企画・実施し、市から助成を受けて実施。
 - 浦添大公園内では、緑の植え付けの許可を得て実施している。
- 道路環境整備
 - 道路向上を図るため、車道及び歩道を歩道に改修した舗装に整備。
 - 車道と歩道の仕上りを変えることで区別を、歩道整備と同時に共存を図っている。

浦添市と仲間自治会の対談概要

浦添市：仲間に取組むようになったきっかけは？
仲間自治会：浦添市の中心地であったため、ワークショップで検討した。浦添グスクを中心に、緑の植え付けと歴史文化を活かしたまちづくりを進めたいという思いがあった。

浦添市：行政と自治会のコミュニケーションがうまく行っている理由？
仲間自治会：浦添市が積極的な取り組みをしてくれていること、浦添グスクの歴史文化を活かしたまちづくりを進めたいという思いがあった。

浦添市：まちづくりに取り組む際のアドバイスとして、どういったことに注意すべき？
仲間自治会：一人でも多くの方がやってみたいという方が多い。

【No.7】

普天間飛行場跡地利用まちづくりイベント (No.8)

「普天間飛行場跡地～ゆめのあるぎのわんのみらい～」絵画コンクールについて

1. 目的

普天間飛行場の遠退後のまちづくりに向け、将来を担う小中学校の児童・生徒が夢のある宜野湾の未来を考えるきっかけづくりを目的に「普天間飛行場跡地～ゆめのあるぎのわんのみらい～児童・生徒絵画コンクール」を開催いたします。

2. 募集作品テーマ

「こんなまちにしたいわんわん」わたしのえがきでわんの未来を！

普天間飛行場の遠退後のまちづくりに関して、応募者が考えるわんの未来のイメージを描いた作品を募集します。

3. 募集期間

平成29年9月1日(金)から平成29年9月22日(金)

4. 対象者

宜野湾市内(琉球大学付属、アメリカンスクール、沖縄カトリック学園を含む)の小中学校の児童生徒を対象

5. 提出作品

合計558作品(小学校：554作品 中学校：4作品)

6. 審査委員会

開催日時：平成29年11月6日(水) 15時～
審査委員：基地政策部長：鈴木 宏治
建築部長：吉澤 隆
教育部長：中島 達二
教育次長：橋本 忍子
宜野湾市長：仲村 崇彦(はごろも小学校校長)
沖縄県建設士会宜野湾支部長：新妻 敦子
わんがのまちベース・ミーティング会長：高橋 康二
宜野湾市軍用地等地主会副会長：佐賀良 祐輝
普天間飛行場の跡地を考える若手の会会長：大川 正彦

【No.8】

大 賞 (市長賞)



普天間小学校 1年 山田 晴

作品紹介
家のすぐ近くに遊園地やお店などがあり、便利ですみやすく、楽しい町。



宜野湾小学校 5年 渡康次 彩人

作品紹介
新しい学校もでき子どももいっぱい、動物や植物も楽しめる自然豊かな新しい宜野湾市を願いました。

銀 賞



大謝名小学校 1年 榎田 芽奈



普天間第二小学校 2年 鍾満 朱里

金 賞



真志喜中学校 2年 奥野 美翔

作品紹介
今は夢ではない物が現実になってほしい。



はごろも小学校 3年 宮良 侑子

作品紹介
小さい子からおとしよりまで楽しくすごせたらなーと思いました。

銀 賞



はごろも小学校 4年 大隅 優



大謝名小学校 4年 西 句麗一

【No.9】

【No.10】

銀 賞



宜野湾小学校 6年 多和田 鈴花



宜野湾小学校 6年 川満 楓華

動画上映内容

基地が遠慮される 基地が遠慮される 基地が遠慮される	まちがつかえる まちがつかえる まちがつかえる	緑の中のまちをつくる 緑の中のまちをつくる 緑の中のまちをつくる	人々が集まるまちができる 人々が集まるまちができる 人々が集まるまちができる
未来のまちイメージVRアニメーション 未来のまちイメージVRアニメーション 未来のまちイメージVRアニメーション			

銀 賞



真志喜中学校 2年 国仲 愛那



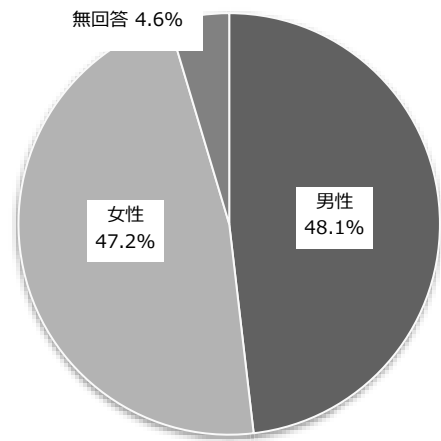
宜野湾中学校 2年 東江 芽生

【No.11】

【アンケート結果】

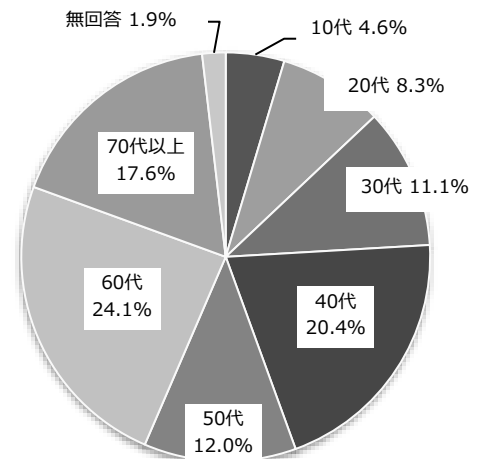
Q1-1 あなたの性別を教えてください。

選択肢	回答数	構成比
男性	52	48.1%
女性	51	47.2%
無回答	5	4.6%
計	108	100.0%



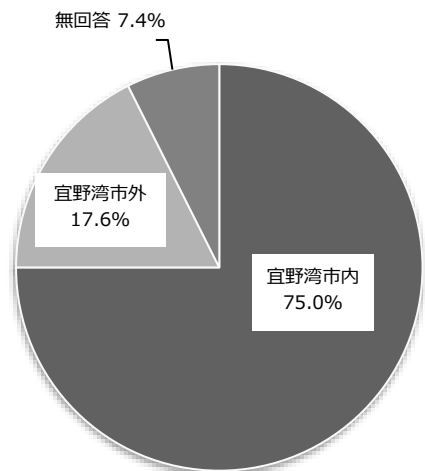
Q1-2 あなたの年齢を教えてください。

選択肢	回答数	構成比
10代	5	4.6%
20代	9	8.3%
30代	12	11.1%
40代	22	20.4%
50代	13	12.0%
60代	26	24.1%
70代以上	19	17.6%
無回答	2	1.9%
計	108	100.0%



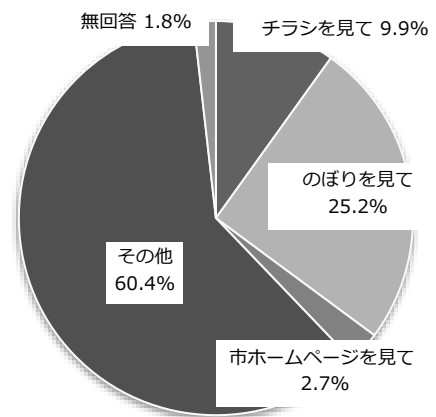
Q1-3 あなたの住まいを教えてください。

選択肢	回答数	構成比
宜野湾市内	81	75.0%
宜野湾市外	19	17.6%
無回答	8	7.4%
計	108	100.0%



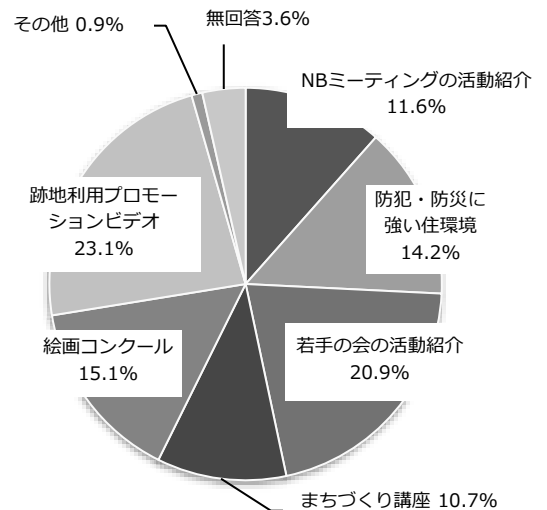
Q2 今回のイベントを何で知りましたか？（複数回答可）

選択肢	回答数	構成比
チラシを見て	11	9.9%
のぼりを見て	28	25.2%
市のホームページを見て	3	2.7%
その他	67	60.4%
無回答	2	1.8%
計	111	100.0%



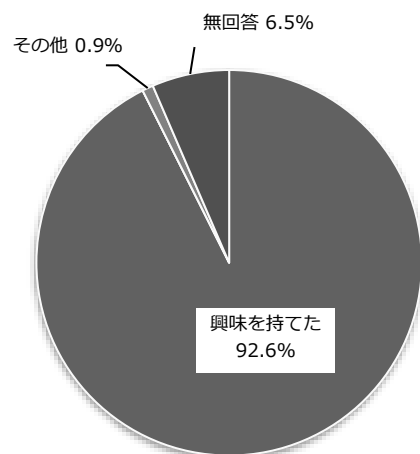
Q3. 今回のイベントで良かったと思う内容を教えてください。（複数回答可）

選択肢	回答数	構成比
ねたてのまちベースミーティングの活動紹介 (パネル No.2)	26	11.6%
防犯・防災に強い住環境 (パネル No.2,3)	32	14.2%
普天間飛行場の跡地を考える 若手の会の活動紹介 (パネル No.5)	47	20.9%
まちづくり講座 (パネル No.6,7)	24	10.7%
平成 29 年度実施の絵画コンクール (パネル No.8)	34	15.1%
普天間飛行場跡地利用プロモーションビデオ	52	23.1%
その他	2	0.9%
無回答	8	3.6%
計	225	100.0%



Q4. 今回のイベントで普天間飛行場返還後のまちづくりに興味を持てましたか？

選択肢	回答数	構成比
興味を持てた	100	92.6%
興味を持てなかった	0	0.0%
その他	1	0.9%
無回答	7	6.5%
計	108	100.0%



Q4.興味を持てた理由（記述）

- ・どんな明るい町になるのか楽しみである。
- ・交通が便利になりそうである。
- ・並松街道を是非実現させてほしい。
- ・自分が高齢（83 歳）なため、子や孫達のために頑張ってほしい。
- ・未来が気になる。
- ・どのような町になるか知りたい。
- ・色々な方向での見せ方がより重なる検討を期待する。
- ・返還後が楽しみである。
- ・便利になりそうで楽しみである。
- ・交通面で楽になりそうでいいなと思った。
- ・跡地緑化もしてくれるとありがたい。
- ・イメージビデオから具体的な考えができた。
- ・基地が無くなって良かったと次世代に残したい。
- ・宜野湾市の未来に夢と希望が持てた。
- ・跡地をどういう風に活かすか自分でも考えてみたいと思えた。
- ・今後の発展について興味をもった。
- ・同じ中部（宜野湾市）が、県内の中心地になる観光拠点などの中心になればいい。
- ・緑地や文化財が残っている。高台地の特徴を活かしてほしい。
- ・交通がとても便利になりそう。
- ・コンベンションセンターから国道 330 号までの沿道に桃並木を植える。

Q5.その他、ご意見等（記述）

- ・このような跡地利用の周知活動を各自治会でも行ってほしい。
- ・23 自治会で、こういう形式の催しものを行うと良いと思う。
- ・実現するのはいつになるか、早期に利用できればと思う。
- ・Nemic（ネーミック）、危機管理（台風以外の備え弱い）。
- ・街づくりのデザインは世界的なデザイナーに任せてほしい。
- ・沖縄の風土、文化（平和）を活かした街づくりが必要だと思う。
- ・内容がわかりやすく良かった。
- ・継続してほしい。
- ・勉強になった。
- ・跡地利用の周知を更に広めてほしい。
- ・活動の様子が見れて良かった。
- ・配布用の航空写真を用意してほしい。今 LRT のような公共交通はぜひ欲しい。レンタサイクルは普天間の開発が進んでから必要となる。
- ・早く普天間飛行場が返還されることを願うばかりである。
- ・自然の中で川などがあると和む。
- ・跡地に「キッズニア」と「アンパンマンミュージアム」がほしい。沖縄に子ども用の観光地（小さい子向け）が少なく、中部は素通りされると思う。
- ・子ども達の絵がかわいい、夢がある。
- ・街づくりの講座や紹介を、もっと多く機会があれば良いと思う。
- ・最近、若手のアーティストの活動もしていると聞くので、そういう活動にもスポットライトを当ててもらいたい。国際医療拠点の市における位置づけに関わることが重要だと思います。
- ・もっと大々的に行った方が良い。
- ・基地内の森の一部を活かした公園づくりをしてほしい。

- ・イオンモールライカムみたいな人だかりよりも、緑化運動も必要だと思う。
- ・折り紙での飾りつけが可愛かった。
- ・学生向けのイベント等をやってほしい。興味ある学生多いと思う。
- ・一日も早く返還してほしい。ドーム、葬祭場を作ってほしい。電車を通してほしい。
- ・もっと情報を発信してほしい。多くの市民、県民に見てほしい、知ってほしい。
- ・宜野湾市民だけではなく、沖縄県民または観光客の方にとって魅力ある跡地利用できるとより素晴らしいと思う。
- ・全体的な都市づくりについては理解できた。ただ、未来という表現ははるか遠い未来の様な気がして寂しかった。早く実現してほしい。
- ・沖縄の観光が発展して、基地で雇用されている人以上に雇用が多くなると良いなと思った。
- ・市役所をはじめとする公共施設が中央部にまとめられると聞いている。公園、駐車場とセットにすれば数十年同じ場所での開発が出来ると思う。米軍飛行場のために支障が解消できるアイデアだと思う。
- ・早く跡地利用に取組めるよう基地撤去を実現してほしい。
- ・ハンビー跡地に見られるように、宜野湾市として人が集まりたくなるような町にしてほしい。
- ・未来を担う子供達の絵に感動した。そうなってほしい。
- ・模型があればイメージを持ちやすいのではないかなと思う。
- ・古い町並みの再現を望む。

2-2) 開催概要（防災まちづくりワークショップ）

- 開催日時：平成 31 年 3 月 3 日（日） 13：00～15：00
- 開催場所：宜野湾市立中央公民館 2 階集会場
- 目 的：「防災に強い住環境」について、市民からアイデアや意見の収集
- 実施内容：3 グループに分け、ファシリテータから日本で起きた災害状況の説明、
宜野湾市防災クイズ出題、宜野湾市巨大地図を活用した防災シミュレーション、意見交換の流れで会が進められた
- 意見交換の内容：跡地利用を防災について考えた際、「道路」「建物」「公園」の観点から
どのような機能があるとよいだろうか？
- 参 加 者：23 名

【ワークショップ風景】

○ワークグループ



○巨大地図



○非常用持ち出し袋の内容確認と重さ体験



【ワークショップ結果】

OA グループ

項目	現状の問題点	跡地利用に必要・欲しいコト・モノ
道路	・海側から高台に逃げる道がない、狭い	・道路幅員の確保 ・どこからでも津波到達時間以内（30～40分程度）で逃げ込める避難ルートの確保 ・幹線道路の無電柱化 ・徒歩で逃げる障害者への配慮・バリアフリー化 ・避難用の道路
公園	——	・移動式のトイレや授乳室（100～200 個）、男女別にする ・トイレやかまどになるベンチの設置 ・子供達のストレス軽減が図れる公園 ・ヘリポートの確保 ・災害時には、仮設住宅が建てられる大きさの広場
建物や施設	・ガラスは割れて雨みたいに降ってくるため危険 ・避難所が不足している ・どれが避難ビルかわからない、気づかない ・誰がどういう避難方法が必要なのかわからない	・震災に強い建物 ・防災について学べる体験型施設（どのくらい壊れるか試して知りたい） ・避難所やエレベーターなど、バリアフリー化の推進 ・病院、医療機関があるといい、安全性がある場所
その他	・若者の防災意識が低い ・海側と内陸部の防災意識への違いが異なる ・実際どういう人が助けてほしいかわからない ・放送が聞こえない ・周知がされていない（起きてからなんとかすればいいや・・・という意識の低さ）	・行政が避難所等について話をする ・耳が聞こえない人、障害を持っている人への支援が必要。⇒筆談などコミュニケーションの取り方の周知 ・周辺地域の防災接点になるように！ ・居場所作りとして、ストレスが軽減 ・避難訓練⇒地域や保護者の連絡態勢

OBグループ

項目	現状の問題点	跡地利用に必要・欲しいコト・モノ
道路	・車両が通れない（道路幅員が狭い） ・西海岸では観光客が集中するため、避難ルートの混雑、方法がわからないことが想定される ・普天間飛行場のフェンスが避難を邪魔している ・夜間は明かりがほしい ・西海岸方面は浸水する	・通行できなくても他の道路で補完できるよう、避難ルートを数本確保 ・緊急車両専用道路 ・災害時の避難ルート周知など観光客への対策 ・夜間における誘導灯の設置 ・浸水対策
公園	——	・防災拠点となるような備蓄量 ・常に防災体験できる施設 ・総合施設（一番頑丈に） ・地下水や雨水を溜める施設 ・災害時の弱者のための避難、拠点づくり ・ヘリポート（那覇空港の代わり）
建物 や 施設	・宜野湾市防災拠点が足りない ・避難ビルが足りない、わからない ・避難ビルの広告が足りない ・被災時には水の確保が難しい ・浸水（大謝名辺り）	・消防施設 ・医療施設 ・総合病院 ・大規模な駐車場（車両泊りの方や物資・補給の場の確保） ・台風など雨水対策
その他	・地震だと崖崩れが危険	・高齢者や障害者施設は優先的に高台に移動させる ・どのように防災知識を認知していくか、させていくか ・車より徒歩での避難をどう広めていくか ・住民に災害時の協力を要請する ・防災ネットワーク（助け合うために弱者と周りの人達との協力関係のため、日頃からコミュニケーションをとる）

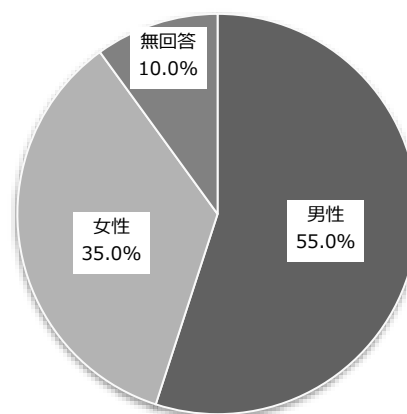
○子どもグループ

項目	跡地利用に必要・欲しいコト・モノ（子どもグループ）
道路	——
公園	・静かなところ ・頭が良い人、やさしい人 ・充電できる場所 ・ゲームができて、テレビがみれるところ ・楽しく勉強できるところ ・料理教室できるところ ・勉強できる静かなところ ・遊具
建物や施設	・遊び道具 ・遊具 ・個室
その他	——

【アンケート結果】

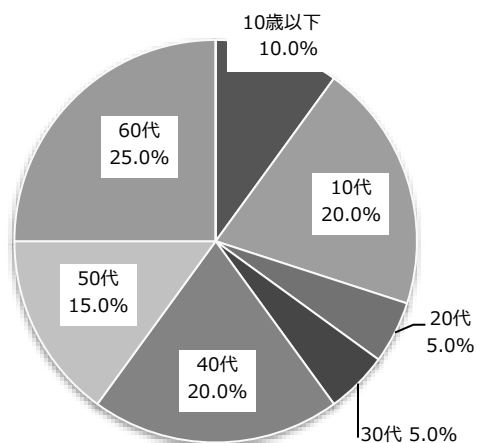
Q1-1 あなたの性別を教えてください。

選択肢	回答数	構成比
男性	11	55.0%
女性	7	35.0%
無回答	2	10.0%
計	20	100.0%



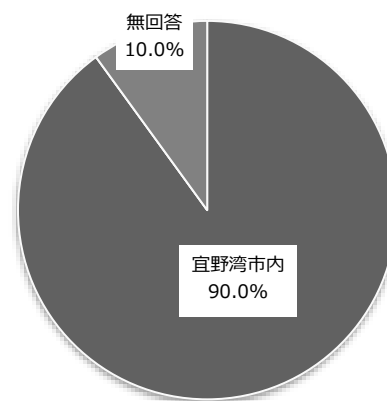
Q1-2 あなたの年齢を教えてください。

選択肢	回答数	構成比
10歳以下	2	10.0%
10代	4	20.0%
20代	1	5.0%
30代	1	5.0%
40代	4	20.0%
50代	3	15.0%
60代	5	25.0%
70代以上	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	20	100.0%



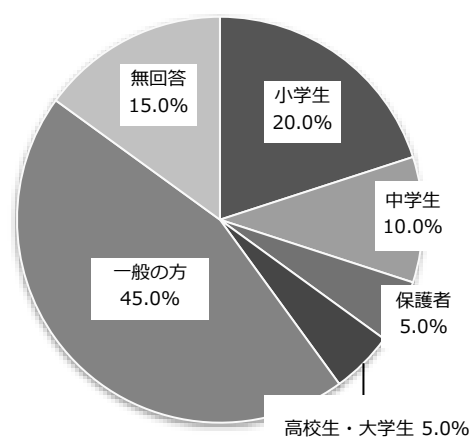
Q1-3 あなたの住まいを教えてください。

選択肢	回答数	構成比
宜野湾市内	18	90.0%
宜野湾市外	0	0.0%
無回答	2	10.0%
計	20	100.0%



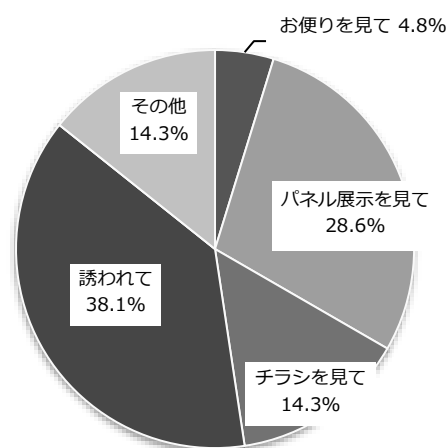
Q1-4 あなたの所属を教えてください。

選択肢	回答数	構成比
小学生	4	20.0%
中学生	2	10.0%
保護者	1	5.0%
高校生・大学生	1	5.0%
一般の方	9	45.0%
無回答	3	15.0%
計	20	100.0%



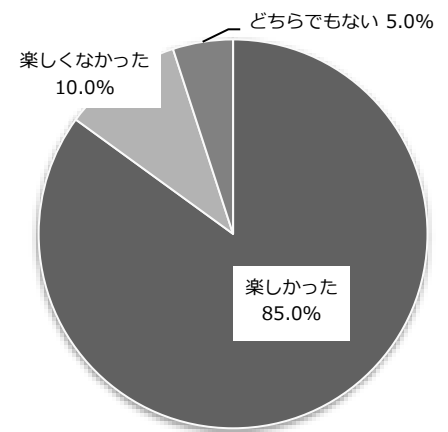
Q2 今回のワークショップに参加したきっかけを教えてください。(複数回答可)

選択肢	回答数	構成比
学校からのお便りを見て	1	4.8%
市役所で行われていたパネル展示を見て	6	28.6%
自治会に設置したチラシを見て	3	14.3%
ご家族やお知り合いから誘われて	8	38.1%
市のホームページを見て	0	0.0%
その他	3	14.3%
計	21	100.0%



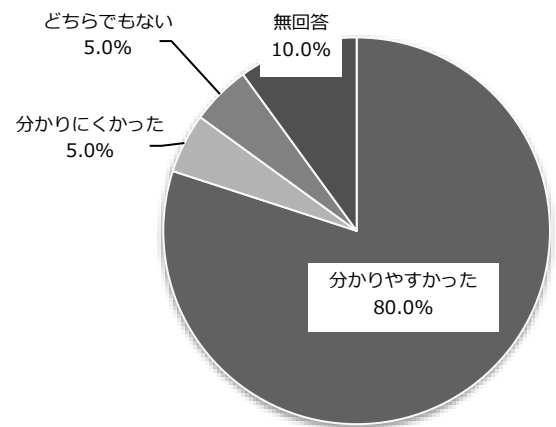
Q3-(1).今回のワークショップの内容はいかがでしたか？(楽しさ)

選択肢	回答数	構成比
楽しかった	17	85.0%
楽しくなかった	2	10.0%
どちらでもない	1	5.0%
無回答	0	0.0%
計	20	100.0%



Q3-(2).今回のワークショップの内容はいかがでしたか？(分かりやすさ)

選択肢	回答数	構成比
分かりやすかった	16	80.0%
分かりにくかった	1	5.0%
どちらでもない	1	5.0%
無回答	2	10.0%
計	20	100.0%

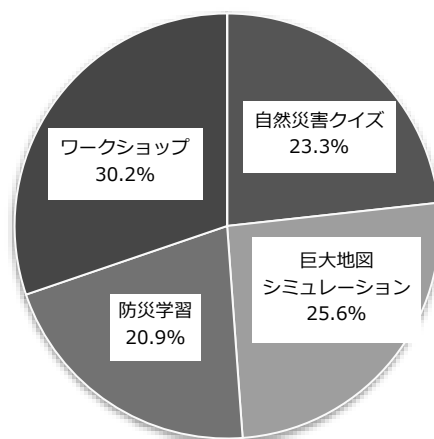


Q3-理由

- ・クイズやスリッパを作るのが楽しかった。
- ・グループの指導者が優しくかった。
- ・わからない所もあったけど、詳しく聞けたので良かった。
- ・ちょっと言っていることが分からなかったところがあった。でも写真など付けてあり見やすく面白かった。
- ・次回もやってほしい。
- ・宜野湾市の大きい航空写真（図面）から住宅や飛行場、道路等の現状がわかった。
- ・パソコンを使って絵での説明もあり、子ども達にもわかりやすかったと思う。
- ・子供から大人まで一緒に考えられたこと。
- ・率直な意見が聞いて良かった。地域、学校、役所と連携した防災活動を目指したい。
- ・色んな意見が聞けて良かった。
- ・防災については、市の防災室と合同に説明があると良いと思った。
- ・防災のまちづくりを実現するために何が必要か考えることができた。

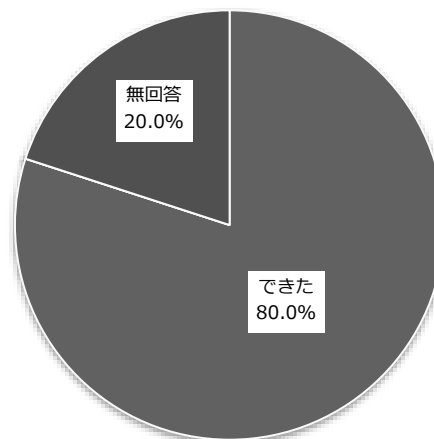
Q4.今回のワークショップで良かったと思う内容を教えてください。(複数回答可)

選択肢	回答数	構成比
自然災害に関するクイズ	10	23.3%
巨大地図を使った避難シミュレーション	11	25.6%
防災に関する学習	9	20.9%
普天間飛行場返還後のまちづくりに関するワークショップ	13	30.2%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	43	100.0%



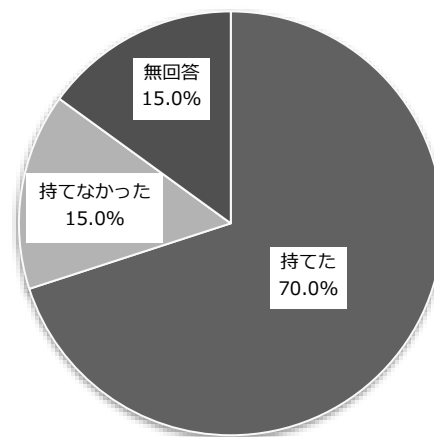
Q5.今回のワークショップに参加したことで、防災について身近に考えることができましたか？

選択肢	回答数	構成比
できた	16	80.0%
できなかった	0	0.0%
どちらでもない	0	0.0%
無回答	4	20.0%
計	20	100.0%



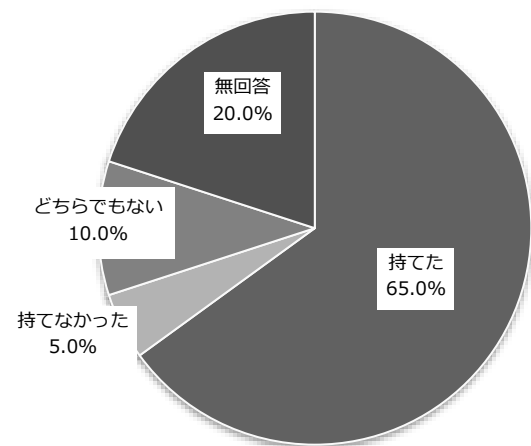
Q6.今回のワークショップに参加したことで、普天間飛行場返還後のまちづくりについて興味・関心が持てましたか？

選択肢	回答数	構成比
持てた	14	70.0%
持てなかった	3	15.0%
どちらでもない	0	0.0%
無回答	3	15.0%
計	20	100.0%



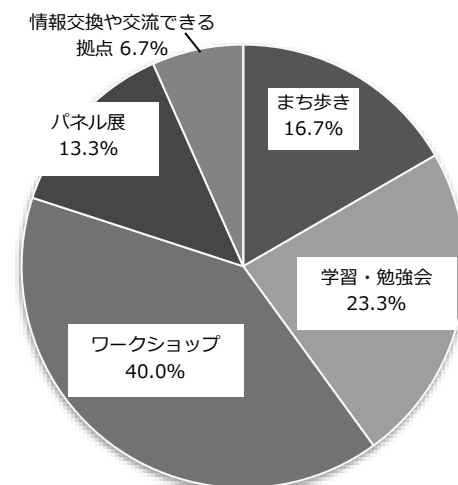
Q7.今回のワークショップを主催した「ねたてのまちベースミーティング」の活動について興味・関心がありましたか？

選択肢	回答数	構成比
持てた	13	65.0%
持てなかった	1	5.0%
どちらでもない	2	10.0%
無回答	4	20.0%
計	20	100.0%



Q8.今後、普天間飛行場返還後のまちづくりについて、どのようなイベントがあれば参加したいと思いますか？（複数回答可）

選択肢	回答数	構成比
まち歩き	5	16.7%
学習・勉強会	7	23.3%
参加・体験型グループワーク（ワークショップ）	12	40.0%
様々な情報・活動等を展示したパネル展	4	13.3%
いつでも行くことができ、情報交換や交流できる拠点	2	6.7%
その他	0	0.0%
計	30	100.0%



Q9.感想・意見

- ・分かりやすく楽しかった。またやりたい。
- ・巨大地図を歩くのが楽しかった。
- ・学校で習うより、ここで聞いた方が分かりやすく伝わった。
- ・クイズなど面白かった。大学生の方々のお陰で、ちゃんと考えることができました。そして楽しかったです。
- ・中高生に対して、授業の一環で取組めたら、意見はたくさん出ると思う。地震、台風、雨、干ばつからの被害とは？
- ・せっかくのいい企画なので、もう少し多くの方が参加してほしいと思いました。どう呼ぶかが課題ですね。災害商品の展示、販売会をやっても楽しそうです。

7) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

- パネル展とワークショップの2つの企画を行う事で、パネル展で興味を引く事からワークショップの参加という行動まで繋げられ、NB ミーティングの活動にも直結する取りまとめを得られることができた。
- ・ 「パネル展」を開催し、その中で跡地利用計画に対する興味を持ち、ワークショップへの参加に繋がったと回答した方もいたことから、2企画実施した効果はあったと考えられる。
- ・ パネル展を通して、NBミーティングの活動内容に興味をもち、更にはNBミーティング定例会にも興味を持った方も見られた。

【今後の課題】

- 参加者の募集方法を工夫する必要がある。
- ・ これまでのイベント募集に比べて幅広い周知活動を展開したが、アンケートでは、確定申告や県民投票目的の来庁の際に立寄った方がほとんどで、チラシを見て訪れた方は少数であり、若い世代の参加も少なかった。今後は、学校や自治会等へのチラシ配布の際に、直接アナウンスする機会を設け、趣旨を理解頂く。参加者への記念品・参加品の配布などの参加メリットの明確化を図り、周知期間の延長及び開催時期を10月～12月の大学の講義が行われている時期に行い、大学と連携を取り大学生の参加を検討する必要があると考えられる。

(3) 情報誌「まち未来だより」の作成・発行

1) 取組みのポイント

跡地利用に関する情報や行政・NBミーティングの取組みについて、市民が見やすく分かりやすい紙面内容・構成で作成した。

2) 情報発信の内容

回 数	発送時期	主な掲載内容
第8号	平成30年9月	○紹介事項 ・「NBミーティングの活動紹介」 ・「普天間飛行場プロモーションビデオ」 ・「まちづくり講座の開催」 ・「宜野湾市 各地区のあゆみと普天間飛行場返還後の未来（野嵩区）」
第9号	平成31年3月	○報告事項 ・「パネル展・動画上映実施」 ・「まちづくり講座開催報告」 ・「NBミーティング活動報告」

連載 企画

宜野湾市・各地域のあゆみと
普天間飛行場返還後の未来（野嵩区）

宜野湾市の中心に位置し、市面積の約25%を占める普天間飛行場が返還された後は、普天間飛行場跡地の開発だけでなく、周辺市街地の整備や普天間飛行場跡地との連携が必要になってきます。

そこで、今回より普天間飛行場跡地の各地域を1ヶ所ずつピックアップし、地域の歴史と普天間飛行場返還後の跡地利用と関連した地域の未来についてご紹介いたします。

◆ 野嵩区のみみ

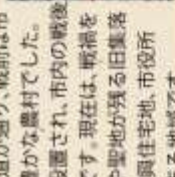
野嵩は、王府時代の公道が通り、戦前は市内でも規模が大きく豊かな農村でした。沖縄戦では収容所が設置され、市内の戦後復興が始まった場所です。現在は、戦禍をまぬがれた多くの泉や聖地が残る旧集落と、区画整理された新興住宅地、市役所などの行政機関が集まる地域です。

【戦前】



出典：普天間飛行場跡地未来予想図（平成26年3月制作）

【現在】



◆ 普天間飛行場返還後の未来



出典：全体計画の取りまとめ（2023）

◆ 周辺市街地整備との連携の方針

【周辺市街地の改善と連携した跡地利用】

- 周辺市街地への再編
- 周辺市街地における幹線道路の整備
- 周辺市街地における幹線道路の整備

出典：野嵩区まちづくり委員会（平成28年3月制作）

「まち未来だより」発行元

宜野湾市役所 まち未来課
〒901-2210 沖縄県宜野湾市野嵩一丁目1番1号 野嵩区まちづくり委員会
電話 098-882-4401（直通） FAX 098-882-7022

vol.08
2018 September
9月
第1回

宜野湾市街地整備部まち未来課

まち未来だより

「まち未来だより」では、普天間飛行場の跡地利用に関する取り組みについてお伝えします。

1. 普天間飛行場跡地利用の市民検討組織

「ねたてのまちベースミーティング」が活動中です！！

◆ 活動目的

本組織（名称：NB ミーティング）は平成18年度に発足し、周辺市街地のまちづくりを含めた普天間飛行場の跡地利用を市民目線で考えるため、月1回定例会の中で検討を行い、また他団体との意見交換などの対外的な取り組みを行っています。

◆ 今年度の取り組み

普天間飛行場の跡地利用と絡め、市民に身近で分かりやすい「住環境」をテーマとして検討していくこととし、「防犯・防災」の観点から検討を進めているところです。今年度も様々な取り組みを通して市民の声を集めて、NB ミーティングとしてまとめいく予定です。みなさまのご参加をお待ちしています！




第1回定例会では、「防犯・防災」に関し、市民の声を集め、住環境の向上について、意見交換を行いました。

第4回定例会では、「防犯・防災」に関し、市民の声を集め、住環境の向上について、意見交換を行いました。

参加者募集

「NB ミーティング」に参加しませんか？

日時：毎月第3火曜日 午後7時～午後8時30分
会場：宜野湾市役所別館3階 第一会議室
対象：市内在住、在勤のみならず
事務局：宜野湾市基地政策部まち未来課

※日時や会場は変更する場合がありますので、事前に宜野湾市ホームページでご確認ください。



図：「まち未来だより」vol. 8（表面）

2. 「動く！ 普天間飛行場跡地未来予想図」のホームページが公開中です！！

「普天間飛行場跡地 未来予想図」は、これまで学識経験者や地権者の皆さん、県民・市民の皆さん、関係機関等と一緒に考え、これまでに集めた情報や調査結果を「全体計画の中間取りまとめ」として発表し、その概要をわかりやすくイメージで紹介しているサイトです。

様々なトピックから普天間飛行場跡地に関する動画をご覧いただけます。



動く！ 普天間飛行場跡地未来予想図へのアクセス方法

▲ QRコードで簡単アクセス

 ▲ 「普天間未来予想図」で検索
 普天間 未来予想図 検索
 ▲ URLを直接入力
<http://www.pref.okinawa.jp/futenma-mirai/>

3. 普天間飛行場返還後のまちづくりについて考える「まちづくり講座」を開催します！！

◆開催の趣旨

「普天間飛行場が返還された後、飛行場跡地や自分の住んでいる地域はどう変わっていくのだろうか？」と考えたことはありませんか？

普天間飛行場の返還合意から22年が経った今、市民全体で普天間飛行場返還後の宜野湾市の未来について知り、考え、跡地利用への関心と返還の機運を高めていくことを目的に「まちづくり講座」を開催します。

◆開催概要

今年度のまちづくり講座は、計4回の開催を予定しており、第1回は「まちは誰がつくるのか？」をテーマとして開催します。
みなさまのご参加をお待ちしています！

「第1回 まちづくり講座」へご参加ください！

日 時：10月13日（土）午後3時～4時30分
会 場：宜野湾市農協会館2階でいご
（中地原 宜野湾市 野舎 736）

テーマ：

「まちは誰がつくるのか？」

～普天間飛行場跡地利用に係る合意形成活動の経緯と今後の市民参加の意義～

お問い合わせ 宜野湾市役所 基地政策部 電：話：098-893-4401（直通）
申込み窓口 まち未来課 電：話：下地 通商 メール：kch01@city.ginowan.okinawa.jp

※当日参加でも構いませんが、席に限りがございますのでお申し込みください。

第2～4回の講座予定

市民がまちづくりに参加しないとうなる？

開催時期：10月下旬

市民参加のまちづくり成功例

開催時期：12月上旬

駐留軍用地の跡地利用は他人事でない！

開催時期：2月上旬

※第2回は開催日時と会場については、第1回でご案内するほか、ホームページにて掲載致します。

図：「まち未来だより」vol. 8（中面）

みんなのまち未来だより 宜野湾市の夢のまちづくり

vol.09

2019 April

まち未来だより 4月

「まち未来だより」では、普天間飛行場の跡地利用に関する取組みについてお伝えします。

1.「パネル展・動画上映」を開催しました！

◆開催目的について

普天間飛行場跡地利用に関し、行政や関係団体のこれまでの活動記録等を展示し、市民の皆さまへ広く情報発信を行うことを目的に開催しました。

【開催概要】

場 所：宜野湾市役所 1F市民ギャラリー

日 時：2月18日(月)～3月1日(金) 8:30～17:15

来場者：292名

◆開催結果について

来場者を対象に行ったアンケート結果では、普天間飛行場跡地のまちづくりについて、9割以上の方が「興味を持って」と回答されており、多くの方々に普天間飛行場跡地利用について興味・関心を持っていただくことができました。

今後このようなイベントを開催し、普天間飛行場跡地利用について市民の皆さまに広く周知していきたいと考えています。

Q. 今回のパネル展・動画上映で良かったと思う内容を教えてください。

【普天間飛行場跡地利用プロモーションビデオ】

内容	割合
普天間飛行場跡地の利用	30.9%
宜野湾市のまちづくり	23.1%
宜野湾市の未来	14.2%
宜野湾市の歴史	10.7%
宜野湾市の文化	1.5%
宜野湾市の自然	0.7%

その他 0.7%

▶ QRコードで簡単アクセス

▶ 「普天間未来予想図」で検索

▶ URLを直接入力 <http://www.pref.okinawa.jp/futenma-mirai/>

▶ 普天間 未来予想図 検索

【回答数：225】

NBミーティングの考える

4.「防犯・防災に強い住環境」

今年度の様々な活動を通じて得られた内容をもとに、「防犯・防災に強い住環境」における「まちづくりの主な視点」を取りまとめました。

“まちづくりの主な視点”

道	住宅地	公園	集積地
交通事故や犯罪・災害を防止・軽減する安全・安心な道を考えることが重要です	災害に強い建物をつくり、そこに住む人々がコミュニティ形成を促せる住環境を考えることが重要です	人が集い、防災機能が充実した公園を考えることが重要です	将来を見据えたまちづくりを現時点から意識することが重要です

「防犯・防災に強い住環境」の方針図

人と車がかわらない安全・安心な道路整備

公園が目に見える住宅配置

災害対応の複合施設（遊び場・駐車場）

誰もが使いやすい避難所案内

災害対応型の公園整備

避難路として余裕をもった道路幅員の確保

【「まち未来だより」発行所】

宜野湾市役所 基幹施設部 まち未来課

〒901-2710 沖縄県宜野湾市野間一丁目1番1号

電話：098-889-4441（直通） FAX：098-889-7022

※本誌の発行所は、本誌の発行所とは異なります。本誌の発行所は、本誌の発行所とは異なります。

図：「まち未来だより」vol. 9（表面）

◆ 対外的な取組み③ (先進地視察会：大阪府岬町 リフレッシュ海坂) の要約と感想



ソフト、ハード両面の防犯対策（WEBカメラ導入や24時間警備員の常駐等）を展開している住宅地へ需要に伺いました。

学んだこと

- ⇒ コミュニケーションの工夫など夜間でも明るいまちは防犯に繋がる
- ⇒ 脱野を減らすには、美しいまち並みとコミュニティが大切
- ⇒ 住民皆でコミュニケーションを取り、まちを守っていく

豊田が大事

◆ 対外的な取り組み③ (子どもから大人まで一歳にきょう！ 防災まちづくりワークショップ)

今年度のNＢミーティングの活動テーマである「防災に強い住環境」について、市民の皆さまからアイディアや意見を収集することを目的として開催しました。

被災者について勉強しよう！

[illegible]

ワークショップのまとめ

- 採集した地層の位置や深層にもよるが、概ね30〜40分程度
 に1回どこからでも発光から消光までを1サイクルと見做
 す。夜間における誘導灯の設置
 道路ネットワークの多様化
 観光客や避難ルートなどの照灯

- 震災に備え建物の整備
病院や消防、圧伸機関、橋梁の充実
車中泊を想定した大規模な駐車場の確保
台原など、大雨や暴風に強い建物の整備
避難所やエイベーターのバリアフリー化

- ・ベリボートの確保
- ・トイレや釜戸になるベントの設置
- ・移動式のトイレや発乳室の確保
- ・原宿は町並み建てられる立派の公園整備
- ・下水道と雨水を分離される仕組みづくり

- ・ 周知を持っている方への交通の円滑
- ・ 避難生活でのストレス軽減策の検討
- ・ 車ではなく徒歩での避難周知
- ・ 居住地民への協力体制づくり
- ・ 防災拠点となり得る避難量の確保

「NB ミーティング」に参加しませんか？

時：毎月第3火曜日 午後7時～午後8時30分
場：豊野湾市役所別館3階 第一会議室
象：市内在住、在勤のみを主
又メール kicho01@city.ginowan.okinawa.jp
連絡先：(098) 893-4401 (直通)
事務局：豊野湾市建設政策推進まちづくり課

※日時や会場は変更する場合がありますので、事前に宜野湾市ホームページでご確認ください。

2. まちづくり講座を開催しました!!

◆まちづくり講座とは？

曾天飛飛行場返還後のまちづくりを進めるにあたっては、地権者だけでなく、市民の皆さまの参加がとても重要となります。そのため、平成30年度よりまちづくりについて学べる「まちづくり講座」を計4回にわたって開催しました。

来年度も引き続き開催を予定しておりますので、市民の皆さまの参加をお待ち
しています！

第1回 「まちは誰がつくるのか？」

平成30年～吾天竺行團訪日利用に係る台型形成活動
1043(上)



第2回 「これまでの駐留軍用地跡地利用と市民参加型まちづくりの事例」
平成 30 年

19/197(注) 一市民がまぎくりに参加しないとうなるフー

■ 3 目 「市民参加のまちづくり成功例」

～市民参加はどのようにして進められたのか～
平成30年
12/15(土)
講師 国見 一 国見市社団地区（社団市会連合）

「拒絶」

曾天間モデルの考察」

3.「ねたてのまちベースミーツィング」の活動紹介

◆ 活動目的と今年度の取り組み

本組織(略称:N8ミーツィング)は、周辺市街地のまちづくりを含めた普天間飛行場の地域利用を市民主導で考え、情報を発信し、基地返還後のまちづくりについて市民の関心・関心を高めるための活動を行っています。

...the ...

今年度は、市民に身近でわかりやすい内容として、「防犯・防災に強い住環境」をテーマに、他団体との意見交換やワークショップなど、対外的な取り組みを行いながら検討を行いました。

◆ 対外的な取組み① (各種文書のとりまとめ)

防犯・防災の専門家や地域で活動されている団体にお話しを伺い、意見交換を行いました。

■防犯に関する意見交換会（H30.10.23） ■防災に関する意見交換会（H30.12.18）



3) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

- 跡地利用に関する情報や・行政・NBミーティングの取組みを分かりやすく発信する事ができた。
- ・ 市民のまちづくり機運醸成を目的に実施した「まちづくり講座」や「NBミーティング活動」「先進地視察先」「防災ワークショップ」の内容などを掲載し、跡地利用に関する情報や・行政・NBミーティングの取組みを分かりやすく発信する事ができた。

【今後の課題】

- 市民に対して跡地利用に関する情報を提供し市民の関心を高めるため、今後も継続して発行する必要がある。
- 分かりやすさを重視した見せ方の工夫等について今後も検討する必要がある。